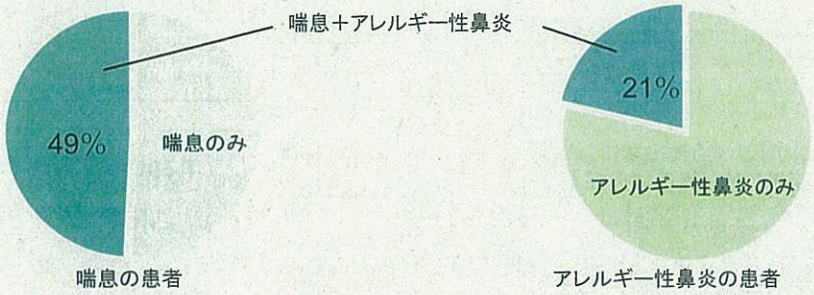
気管支喘息とアレルギー性鼻炎の関係

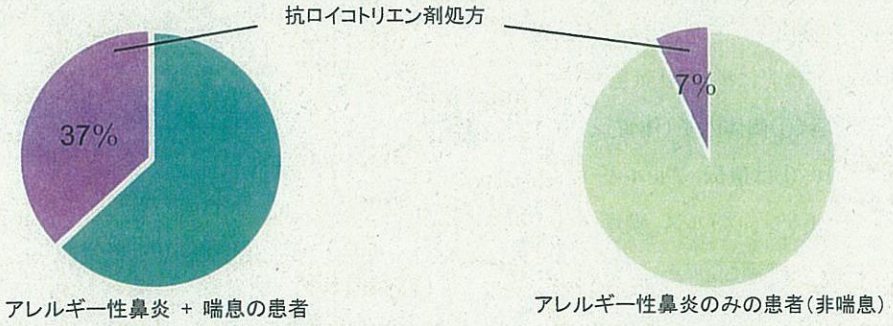
- 2008 年 12 月1日付け業界紙によると、日本アレルギー学会では国際ガイドライン「ARIA2008」日本語版を作成したとのことです。アレルギー性鼻炎の治療が喘息にも影響しているため、アレルギー性鼻炎にも喘息治療薬の使用を考慮することが示されているようです。点鼻用ステロイド剤や抗ロイコトリエン剤が推奨されています。

- 当社分析ツールである JMDC Data Mart ※1 (JDM)でどの程度簡単に基本数値を検証できるか、入社1ヶ月の新人に下記検証を依頼したところ、およそ3分で数値を出せました。(分析対象期間:2007 年 5 月～2008 年 4 月の 1 年間)。

① 喘息患者数(J45)とアレルギー性鼻炎患者数(J30)の関係(患者割合):
喘息患者の49%がアレルギー性鼻炎を併発していました。逆にアレルギー性鼻炎患者の21%が喘息を併発しているようです。



② アレルギー性鼻炎患者から見た抗ロイコトリエン剤の処方率:
アレルギー性鼻炎で喘息を併発している患者(①の■)の 37%が抗ロイコトリエン剤を処方されていました。しかし、喘息を併発していない患者では7%しか処方されていないようです。



- 今回のガイドライン作成によるこれらアレルギー性鼻炎患者に対する抗ロイコトリエン剤や吸入性ステロイド剤の処方動向は、今後要注目かもしれません。

※1. JMDC Data Mart : インターネットで使用可能な分析ツール。以下の分析メニューがあります。

P-Market
推計(実)患者数分析、外来受診回数・入院日数分析
P-Report
推計(実)患者数分析、投与量、投与日数、併病、併薬など各種分析
P-DataLyzer
上記に加えて自由な組み合わせで帳票作成可能な機能
P-Track
ローデータのダウンロード機能により詳細な分析が可能